

2020年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

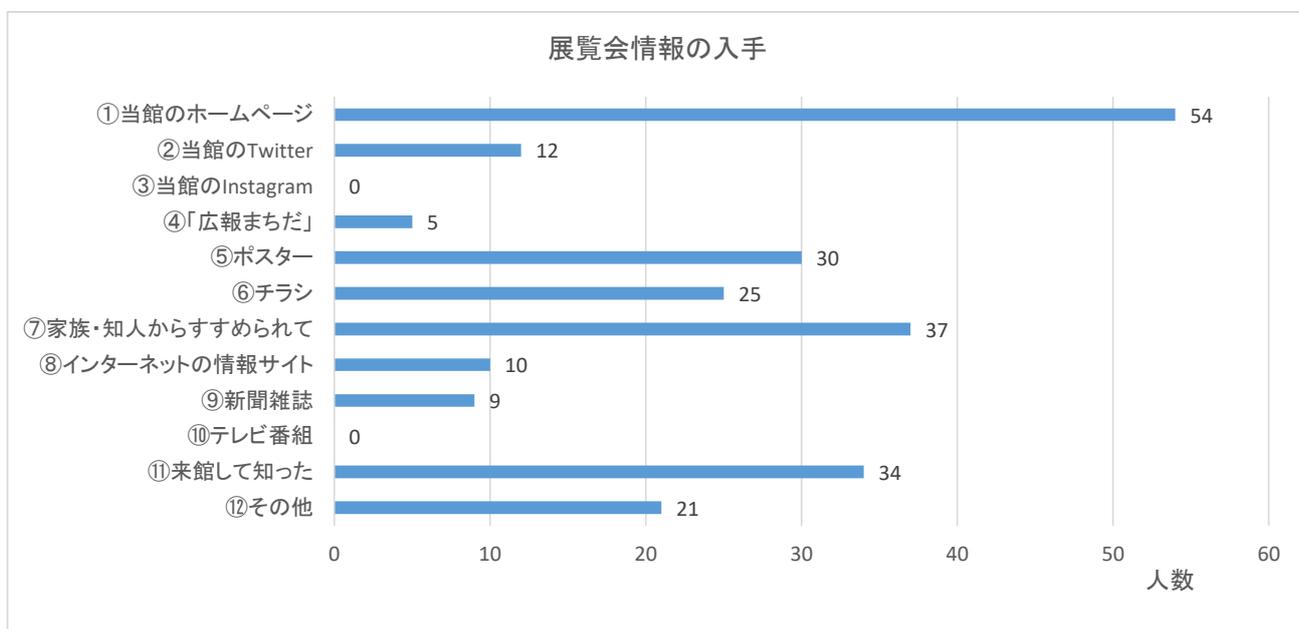
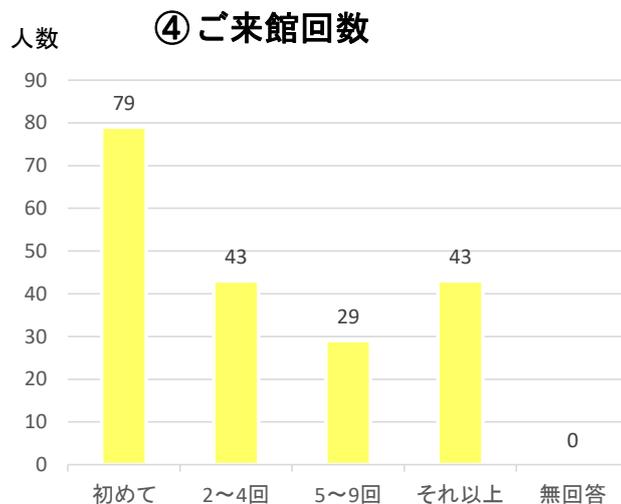
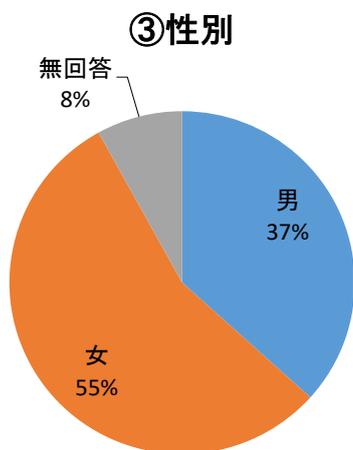
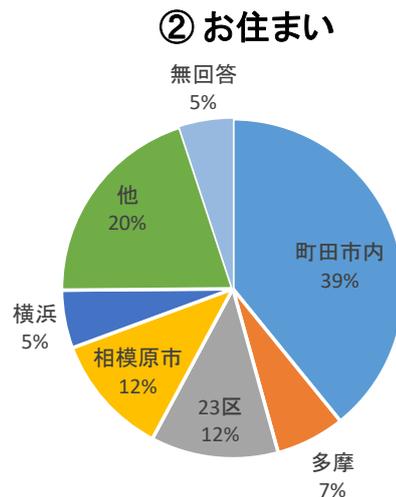
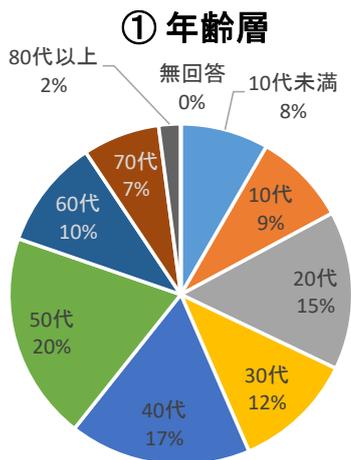
展覧会名	インプリントまちだ展2020 すむひととゆるひと「アーティスト」がみた町田			担当者名	町村悠香、高野詩織		
会期	2020年6月9日(火)～9月13日(日) ※当初予定 4月11日(土)～6月28日(日) 新型コロナウイルス感染拡大予防に伴う臨時休館のため会期を変更した。			開催日数	84日		
協賛・後援・協力	【共催】東京新聞 【後援】インドネシア大使館 【協力】ガルーダ・インドネシア航空、FC町田ゼルビア 【助成】一般財団法人地域創造						
巡回館	なし						
展覧会概要	東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて2017年から開催してきた「インプリントまちだ展」シリーズの集大成として開催。当市がホストタウンのインドネシアから注目のアーティスト、アグン・ブラボウォを招いた。さらにこれまでのシリーズの成果を再構成し、招へい作家(ながさわたかひろ、荒木珠奈、田中彰)と町田に住んだアーティストや市民の自主出版物も紹介。版画を中心とする印刷物約250点を通して町田という郊外都市の姿を示す展覧会とした。なお、本展は新型コロナウイルス感染拡大予防に伴う臨時休館のため会期変更、イベントの中止・日程変更などさまざまな予定変更を行った。						
ねらい・対象	①2017-2019年招へい作家が町田に取材して制作した新作、2020年招へい作家・アグンの代表作と町田に取材した新作、②町田出身・在住経験者による町田を題材とした作品、③歴史・民俗資料、市民の自主出版物という、3つのアプローチの制作物で構成した。このことで、旅人のようにして地域を取材、制作した招へい作家の作品と、日常のまなざしから生まれた制作の両方を紹介し、一つの地域の多様な側面を紹介することをねらった。						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	作家招聘 (公開セミナー) ※中止 (普及係担当)	4月11日(土) 公開セミナー 10:30～15:30 一般公開 13:00～15:30 (途中休憩含む)	公開セミナー 「Reduction Print(彫り進み版画)で作品をつくってみよう!」 一般公開 「Reduction Print(彫り進み版画)の作り方をみてみよう!」	アグン・ブラボウォ (Agung Prabowo)	受講生10人(応募25人) ファシリテーター6人		
	学校向けプログラム ※中止 (普及係担当)	5月13日～6月26日の 平日の開館時間中	インプリントまちだ展2020 学校向けプログラム	当館学芸員	受入可能数6校のところ、3月上旬時点で市内公立小学校3校より依頼があった。		
	アーティスト・トーク	7月18日(土)	荒木珠奈 アーティスト・トーク ※Zoomによるライブ配信とエントランスホールで開催、アメリカ・ニューヨークと中継	荒木珠奈 当館学芸員 藤村拓也	31人		
	アーティスト・トーク	7月19日(日)	アグン・ブラボウォ アーティスト・トーク ※Instagramによるライブ配信、インドネシア・バリ島と中継	アグン・ブラボウォ 通訳 油井理恵子	214人		
	トークイベント	7月24日(金・祝)	町田・フリーペーパー・ギャザリング	ガゼッター・デロ・マチダ編集部、国マガ編集部、玉川つばめ通信編集室、らぶらぶあみ事務局	18人		
	市民交流イベント (普及係担当)	8月5日(水)	ポップアップ・スクリーン工房	有限会社KRAKEN 進士 裕之、 刷師 マユミコウジ	27人		
	子ども向けイベント	8月12日(水)	おうちで版画美術館 ※YouTube配信した事前鑑賞動画をもとに、Zoomのライブ配信で鑑賞会を行った	富田めぐみ (NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会 代表) 当館学芸員 町村悠香、村瀬可奈(動画作成)	23人		
	アーティスト・トーク	8月15日(土)	ながさわたかひろ アーティスト・トーク	ながさわたかひろ	20人		
	アーティスト・トーク	8月16日(土)	田中彰 アーティスト・トーク	田中彰	23人		
	インドネシア・フェア	9月4日(土)、5日(日)	伝統舞踊とガムランコンサート、ポップアップストア	ガムラングループ・ランサンサリ デワンダル・ダンスカンパニー	434人		
	ギャラリー・トーク	7月4日(土)、19日(日)、9月12日(土)	担当学芸員によるギャラリー・トーク ※7月4日(土)は一部をInstagramでライブ配信	当館学芸員 町村悠香、高野詩織	58人		
	プロムナード・コンサート	9月12日(土)	時を超えて響く音楽	桜美林大学	170人		
観覧料	一般	大・高生					
	900 円	450 円					
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	2,766 人	909 人	3,675 人	3,059 人	225 人	391 人	— 人
	目標値	16,750 人					

主な収入 (10/1現在)	観覧料収入	図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源			
	2114 千円	281 千円	36 千円	5200 千円			
事業経費 (10/1現在)	講師謝礼 原稿執筆謝礼 協力謝礼 出陳謝礼 広告宣伝委託料 HP多言語化業務委託料 作品額装業務委託料 イベント企画運営委託料(インドネシアフェアを含む) イベント企画運営委託料 市民交流事業 印刷物作成委託料 ディスプレイ作成委託料 負担金		40千円 247千円 60千円 0千円 619千円 300千円 538千円 556千円 176千円 4489千円 1659千円 7000千円	15720 千円			
主な広報・取材 等の講評	【新聞】東京新聞多摩版(3/24、28、4/4、6、23、5/6、26、6/10、7/12、9/6)、しんぶん赤旗(7/3)、神奈川新聞(8/28)、タウンニュース、読売新聞多摩版(9/7)【テレビ】多摩テレビ、JCOM、イツココミュニケーション【ラジオ】エフエムさがみ【WEB】美術手帖WEB版、Webマガジン「アーツスケープ」、町田相模原経済新聞、「レビューとレポート」のカタログ評						
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
	199 件	5.4 %	39 %	57 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	96.5 %	95.9 %	87.4 %				
	主なご意見	別紙のとおり。					
工夫と反省点、 改善方法	予備調査	2018年夏からコーディネーターを立ててインドネシア人作家の調査をはじめ、2019年2月に決定。依頼したアグン・プラボウォは2019年9月に来日し、約3週間町田に滞在し取材を行った。2017年展覧会から蓄積してきた調査に加え、図書館の郷土資料を活用し町田の農業、養蚕、市街地形成の歴史を改めて調査した。					
	作品選択	「ねらい・対象」の②にあたる作品は自然や土地の成り立ちと変化など、普段の生活では見落しがちな側面を重視した(若林奮、三井寿、松本受作品)。「ねらい・対象」の③で述べたように、美術作品だけでなく、歴史・民俗資料・自主出版物も展示し、普通の人々の営みを想像できるよう工夫した。アグンの作品は代表作を通じて作歴を追えるようにしつつ、インタラクティブな作品や映像作品も展示し、日本初紹介の外国人作家に親しみを持ってもらえるよう心掛けた。					
	図録作成	B5判200ページのカatalogを作成。全作品の図版に加え、招へい作家4名のテキスト、コラム5本、フリーペーパー制作者のアンケート、4年間分の展覧会ドキュメント、担当学芸員によるテキストを掲載した。さらに町田市の地図を掲載し、出品作品がどのエリアを描いたものか図示することで、地域密着の企画として資料性を高める工夫をした。					
	ディスプレイ	エリアごとに照度や作品の間隔を変え、メリハリがある展示空間となるよう工夫した。アグンのインスタレーション作品「デジタル・メモリー」では、モーションキャプチャーを用いたインタラクティブな作品を設置し、子どもから大人まで楽しんでもらえる部分を作った。当初は作家立ち合いのもと設置する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大でアグンが来日できなくなり、リモートで指示を仰ぎながら組み立てた。					
	広報	初めての試みとしてSNS広告を出し、ウェブクーポンを発行した。また臨時休館中はSNSで作品解説動画を投稿しステイホーム期間中にも美術を楽しみ、展覧会に関心を持ってもらえるよう工夫した。新型コロナウイルスの影響から出足が鈍く来館者数は苦戦したが、ウェブ割引の利用者は多かった(236人)。今後もこのようなネット展開で効果的な広報を目指したい。					
	イベント	新型コロナウイルス感染拡大予防、作家の来日中止でイベント運営は特にこれまでにない工夫が必要となった。日程変更やオンライン開催への移行、人数制限、検温、ソーシャルディスタンスの確保など、どのイベントも当初の予定を変えて行ったが、美術館スタッフ全員のバックアップにより安全な開催が可能になった。特にインドネシア・フェアは、当初予定していた舞踊とガムランコンサートに加え、アグンの絵柄を使った「ホストタウンフレーム切手」の贈呈式も加わり、日本郵政、インドネシア大使館も参加する大規模なイベントとなった。					
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、初日無料日、シルバーデー(毎月第4水曜日)は実施しなかった。 ・本展開催期間は当初「浮世絵風景画展」開催予定だったが、来年に延期となった。「浮世絵風景画展」の予告と機運醸成のため、「浮世絵フェア」(浮世絵作品展示、演芸会、雅楽演奏)を8月1、2日に開催した。 						

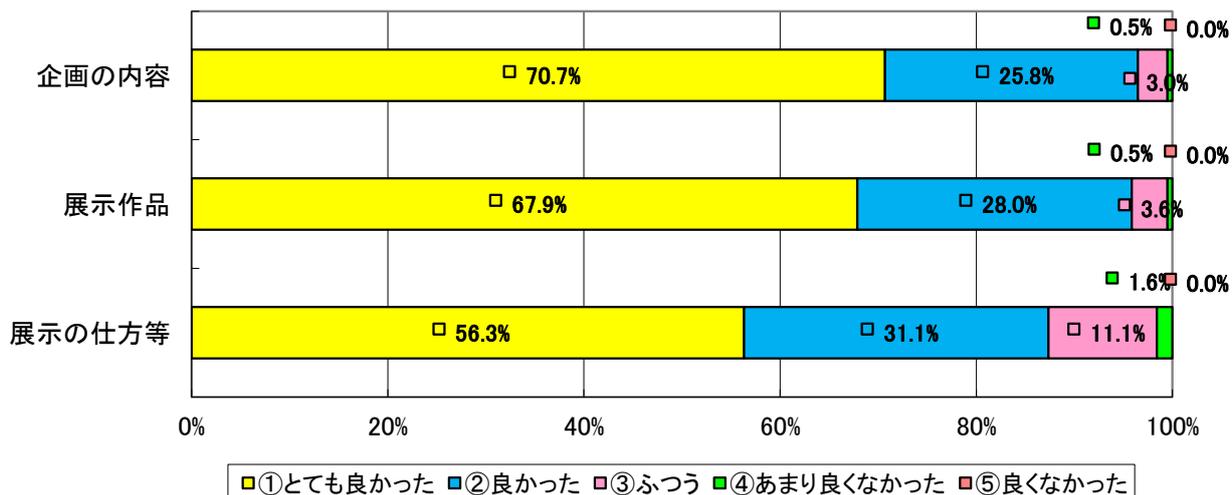
「インプリントまちだ展2020 すむひととくるひと 「アーティスト」がみた町田」展 アンケート集計結果

開催期間：2020年6月9日（火）～9月13日（日）

回答者数：199人（総入館者数：3,675人 アンケート回収率：5.4%）



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

◆企画の内容について

地元町田を取り上げてよかった／アーティストの視点から地元町田のことを知ることができた。

◆展示作品について

アグン・プラボウォ作品：アグンの作品が素晴らしく圧倒された／色彩豊かで何度見ても発見があった／インドネシアのアーティストの作品は新鮮だった。今後もまだまだあまり知られていない人を取り上げてほしい。

インスタレーション《デジタル・メモリー》に対しての子供の感想：動く＆真似する絵があるのがよかった／たくさん遊べて楽しかった
 その他：市民参加して作った作品があってよかった（田中彰《町田芹ヶ谷えごのき縁起絵巻》）／地元から海外のアーティストまで幅広い視点から選び、いろんなタイプの作品がみられたのがよかった／一貫したストーリーがあってよかった／町田の地域資料があってよかった

◆展示の仕方やキャプションについて

作品を釘で浮かせて展示してあったのが面白かった／ブックカバーの展示が歩くときに変化があって面白かった

キャプションについて：必要最低限なのがよかった／字がもう少し大きいほうがよい

展示空間について：作家ごとに空間が分かれていて、流れるようにみられた／順路は分かりやすかった

撮影について：撮影可は継続してほしい／撮影可、不可がまざっていて分かりにくい

◆展示室の環境について

コロナ対策について：コロナ対策は十全だった／コロナ対策でイスが間引かれていて、数が少なかった

その他：展示室内は少し寒かった

◆その他

コロナ以来久しぶりに美術館に来られ、人間にとって文化的な活動は必要だと感じた／コロナ流行下でも対策をしながら展覧会を開いてくれて嬉しかった／アグンが来日できなかったのは残念。コロナ後にいつか来日できると嬉しい／ギャラリートークは定期的に行ってほしい

集計結果では50代が最も多く、50代までの割合が81%だった。昨年の同時期の展覧会（畦地梅太郎展・インプリントまちだ展2019）よりも50代までの割合が13%増えており、新型コロナウイルスで高齢者が出控えた影響と考えられる。

地域をみると、「町田市内」が昨年同時期より13%増えており、地元密着の企画内容だけでなく、これもコロナの影響で遠方への外出が少なかったためだと考えられる。

情報源としては「①公式HP」が最も多かった。次いで、「⑦友人・知人からのすすめ」、「⑩来館して知った」が多かった。⑩が多いのはこれまでにない特徴だった。繁華街での密を避ける外出を求めたのか公園内は賑わっている日が多く、美術館来館につながったと考えられる。また、来館者数は伸び悩んだが、アンケート回収率は高く展覧会の印象は強かったと思われる。

コロナの影響で従来から変わった人の流れは今後もある程度続くだろう。今回は開幕後にエントランスロビー内、窓の装飾を増やす工夫をして公園利用者へのアピールをしたが、今後は市内・町田駅周辺の広報強化が重要だと考えられる。